

2025年度 出題内容の分析と出題の意図

世界史

一般選抜 前期日程

●出題内容

試験時間	70分
出題形式	大問ごとに異なる文章が提示され、空欄補充や適文選択が出題される。 各設問の選択肢は4～5つ程度。
解答形式	マーク60%、記述 40% ※2026年度入試よりマークセンス方式のみに変更
難易度	教科書に記載されている基本事項を中心とした出題であるが、正確な知識が求められている。難易度は標準。
問題の内容（構成）	〔Ⅰ〕東アジアの都市・王朝 〔Ⅱ〕ハプスブルク家の統治 〔Ⅲ〕大陸間関係

●出題の意図

高等学校における標準的な学習を通じて世界史全般の知識が習得できているかを問う試験問題としている。教科書・用語集・資料集に準拠し、世界の歴史的事項について、地図問題や史実確認問題および時代の前後関係を問う問題を織り交ぜて出題している。また、大学での授業を理解するにふさわしい文章読解力と論理的思考力が身についているかを試すため、リード文の内容を正確に理解したうえで解答する形での出題を心がけた。

●受験生へのアドバイス

出題は大問3つで構成されており、特にアジアに関するもの1問、ヨーロッパないしはアメリカに関するもの1問、さらにテーマ史問題1問としている。

試験問題は高等学校で用いられる教科書の内容に則っており、地域や時代、分野およびテーマは偏りなく、まんべんなく取り上げられているので、年代や年号、人名、地名といった基本事項をしっかりと把握することが賢明といえる。また、地図問題が必ず出題されている。単に歴史的事項のみならず、地理的な分野での知識も必要とされるので、普段から図録や地図帳も参考にして都市や王朝の都あるいは河川の位置関係を確認しておくことが大切となる。

世界史対策としては、まず、出題傾向をつかむために本学の過去問に目を通しておう。